

VOL. 139

特集：暖かい春の訪れとともに、
希望となる支援を
ADRA Japan スタッフが
活動地で感じた3月の色
日本：能登半島地震被災者支援

世界がわかる。ADRAがわかる。

ADRA

EST.1985

News

2024
3



暖かい春の訪れとともに、
希望となる支援を

受け取ったノートを見せる少年。昨年12月には7,000人を超えるシリアの子どもたちに
カバンや文房具など、学業に必要となる物資を配付

ADRA Japan 事業マップ

ADRA Japanは、約120の国と地域に支部を持つ世界最大規模の国際NGOであるADRAの日本支部です。人種・宗教・政治の区別なく支援活動を行うことをモットーに、海外および日本国内の各地にて様々な活動を行っています。

MOROCCO

モロッコ

地震被災者支援

昨年9月に起きた大地震の震源地近くに住む村人たちは、冬を前にテント生活を余儀なくされていました。ADRAは寒さが本格化する前に彼らの仮設住宅を完成させ、32世帯が冬の寒さを乗り越えることができました。



仮設住宅のカギを受け取り喜ぶ男性（写真左）。

2

安全な水とトイレを世界中に

AFGHANISTAN

アフガニスタン

地震被災者支援

→ p.4-5

4

質の高い教育をみんなに

ZIMBABWE

ジンバブエ

教育環境改善支援

活動地周辺では、家庭の事情や不十分な教育環境のために子どもたちが学校で学びにくい状況があります。そのため、地域住民とともに校舎建設を進めているほか、啓発活動を通じて教育への理解を広げています。



啓発活動では、劇を通じて学校に通う大切さを伝えた

3

すべての人に健康と福祉を

SLOVAKIA

スロバキア

ウクライナ難民支援

スロバキアではウクライナ難民の方々の不安を和らげるために、心理カウンセリングや生活相談ができる場を設けています。またレクリエーションを通したウクライナ難民同士の交流や情報交換ができるようなサポートをしています。



劇を指導できる先生の元、パペットショーに向けて練習するウクライナの子どもたち（レクリエーションの一環）

3

すべての人に健康と福祉を

UKRAINE

ウクライナ

人道支援 → p.4-5

3

すべての人に健康と福祉を

TÜRKIYE, SYRIA

トルコ・シリア

地震被災者支援

→ p.4-5

3

すべての人に健康と福祉を

ETHIOPIA

エチオピア

6

安全な水とトイレを世界中に

3

すべての人に健康と福祉を

5

ジェンダーの平等をすすめる

17

パートナーシップを強化する

17

パートナーシップを強化する

17

パートナーシップを強化する

17

パートナーシップを強化する

17

パートナーシップを強化する

17

パートナーシップを強化する

17

パートナーシップを強化する

17

パートナーシップを強化する

水衛生環境改善支援

ガンベラ州で最も多くの南スーダン難民を受け入れているイタン郡。ADRAは難民の子も通う同郡のマコッド中等学校で、生徒による水衛生クラブの活動促進と手洗い場の修繕により衛生習慣を改善する活動をしています。



今後、学校のそばを通る水道管につなげる工事を行う手洗い場

NEPAL

ネパール

栄養・水衛生支援

ネパール西部バルディヤ郡で安全な水を手入れできるよう、ヤマハ発動機（株）との協働により、同自治体のコミュニティに浄水装置を設置しました。住民が安全な飲料水を飲めるようになる日もすぐそこです。



浄水装置にみなみと溜まった水をみて、思わず笑顔になった

教育支援〈ナマステ基金〉

皆さまの温かいご支援により、家庭の経済的困窮、昔からの社会的風習によって通学が困難な子どもたちを67人支援しています。一人でも多くの子どもたちの将来のために、ご支援くださる方を募集しております。



学校を訪問すると、子どもたちが「ナマステ！（こんにちは!）」と挨拶をしてくれる。

地震被災者支援

→ p.4-5

MONGOLIA

モンゴル

生計向上支援

収入が不安定な牧羊業者が、羊毛の質と生産量を高め、ウール製品を販売できるよう生計支援をしています。人工授精で別種の羊とかけ合わせるなどして、質の良い羊毛を作り出せる子羊を大切に育てています。



大事に育てた羊を抱える牧羊業者

MYANMAR

ミャンマー

国内避難民支援 → p.4-5

JAPAN

日本

能登半島地震被災者支援

→ p.7

INDIA

インド

水害被災者支援

2023年10月、インド北東部において87,000人以上が被災する洪水が発生しました。女性や子どもの世帯主家庭、病人を抱えた家庭など特に支援が必要な世帯に、毛布、蚊帳、ブルーシー



トなどを配付

YEMEN

イエメン

農業復旧支援

南部アブヤン県で灌漑を修復し、農業再開を後押ししています。昨年11月に視察したところ、支援を受けたほぼ100%の人が農業を再開して、子どもの教育や医療にお金を回せるようになったと喜びの声が聞かれました。



灌漑が修復されたため、この女性も農業を再開することができた

ご紹介している事業は皆さまからのご寄付のほか、以下の機関・団体から助成や支援を受けて実施しています（以下敬称略）。
●日本NGO連携無償資金協力（ウクライナ、ジンバブエ、ネパール）
●特定非営利活動法人ジャパン・プラットフォーム（アフガニスタン、イエメン、ウクライナ、エチオピア、スロバキア、ミャンマー）
●公益財団法人 テルモ生命科学振興財団（ネパール）
●公益財団法人 風に立つライオン基金（ネパール）
●赤い羽根「災害ボランティア・NPO活動サポート募金」（国内災害被災者支援）
●花王ハートポケット倶楽部（ジンバブエ）
●パナソニック ホールディングス株式会社（ジンバブエ）
●公益財団法人 森村豊明会（エチオピア）

●ADRA Japan実施事業

■世界のADRA支部がある国と地域

ADRA JAPANの活動

暖かい春の訪れとともに、希望となる支援を

世界では戦争や紛争、自然災害が年々増え、日常の平和を奪われている方が増えているように感じます。彼らは、住み慣れた家を離れざるを得ず、生活基盤や安全が脅かされ、経済的な困難に直面し、不安で先が見えない状況にいます。世界約120か国に支部を持つADRAは、各国において、それぞれの必要に応じた支援を届け、少しでも生きる希望をもってもらえるような活動を続けています。今回はシリア、ネパール、ミャンマー、アフガニスタン、ウクライナより、お伝えします。



地震や紛争による影響で、勉強が進んでいなかった約1,600人の子どもたちを対象に、補習授業を実施している(シリア)



スクールバッグを受け取った時の喜びを伝えるロアさん(写真右)

SYRIA シリア

学べる喜びをもう一度

2023年2月6日のトルコ・シリア地震発生から1年が経ちました。ADRAは緊急支援として食料や衛生用品を配付したほか、一次避難所の環境改善にも取り組みました。また、使えなくなっていた校舎の修繕を進め、学校を離れていた子どもたちがまた教育を受けられるよう、学用品を配付しました。

この活動により、たくさんの子どもたちが学校に戻ることができ、友達と一緒に学べるようになりました。

ロアさんも教育支援を受けて学校に戻れた一人です。今は成績もよくなりました。彼女はこう語ってくれました。「私にとって何が本当に大きな違いだったか分かりますか？ スクール

バッグをもらったことでした。本当に信じられないくらい、とても嬉しかったです！ ADRAの教育支援で私の人生は変わりました。私はあきらめず、学びの旅を続け、父をたくさん笑顔にしようと決めました。ADRAの皆さん、私の学校への愛と夢と将来への決意を高めてくれてありがとうございました」

NEPAL ネパール

心も体も温かく

西ネパールのジャジャルコットを震源とするマグニチュード6.4の地震が2023年11月3日に発生しました。その後も余震が続き、死者150人以上、負傷者560人以上、約62,000棟の家

屋が一部損壊または全壊と報告されています。

ADRAは地震発生の翌週には、被災地に緊急シェルターキット650セットを配付しました。冬に向けて急激に気温が下がる中、野宿をするしかなかった住民は、雨露をしのげるようにはなりましたが、寒さによる体調不良が相次いでいました。そこで、一人ひとりが温かく過ごせるようにするため、厚手の毛布や身に着けられる防寒具、湯たんぽなどを、一家族3人分、500世帯に配付しました。



緊急シェルターキットには防水シート、マットレス、毛布、ロープを含めた。防水シートはテントのように張って使用

MYANMAR ミャンマー

避難民の“希望の光”になる支援

2021年2月以降、国内情勢が悪化しているミャンマーでは、住む場所を追われ、危険と隣り合わせの避難を繰り返しながら、不安定な生活をしている方が200万人以上います。ADRAは子どもの多い世帯や、世帯主が女性の家庭など、社会的に弱い立場とされる家庭を優先的に、基本的な食料品や衛生用品を支援しています。

避難民でありながら、現場で支援に携わっている自治グループのひとり、こう語りました。「困難を目の前にしている避難民の方にとっては、必要な時に必要なものを支援してもらえることが、“希望の光”となっています。思いやりをもって、避難民の方の心に寄り添えることは、私自身も支援する

者の一人として、役割の重要性を感じています」。このような声を大切にしながら、私たちも“希望の光”をさらに多くの方々に届けられるよう、必要な支援を続けていきます。



避難先の村には戦闘が激しい地域から逃れてきた方々の姿が

AFGHANISTAN アフガニスタン

少しでも春のような希望となるように

今日、アフガニスタンでは人口4,300万人のうち、半数以上の約2,370万人は人道支援に頼らざるを得ません。多くの人が栄養失調で苦しむ中、2023年10月7日に西部のヘラート県でマグニチュード6.3の地震が発生しました。現在、ADRAは同県内の620世帯、

4,340人を対象に、食料および生活用品などを支援しています。

避難テントで暮らすモハマディさんは、「かつては農業と畜産業によって、7人家族が生活するのに必要なものは足りていた……でも今は、安全に眠れる場所、食料、温かい衣服、電力、清潔な飲み水、そして医療機関がない。病気になる人たちが後を絶たない。寒さとの戦いもある」と話しました。

モハマディさんは最後に「ADRAの支援には心から感謝している」と付け足しました。彼らも春を感じられるよう、生活状態を少なくとも最低基準レベルまで引き上げることを目指して今後も寄り添っていきます。



地震前と後の違いを語るモハマディさん(写真左)

UKRAINE ウクライナ

戦禍の中にも希望の春を

2022年にウクライナ危機が始まり2年が過ぎました。ウクライナでは今も戦争が続き、犠牲になる方や家を失う方が増えています。ADRAは、ウクライナ国内および周辺国で、戦争の終わりを待ちながら今を耐えている方々に寄り添い、食料や衛生用品などの日々の生活に必要なもののほか、発電機、薪ストーブ、燃料などの配付、避難支援、必要な方への心のケアを続けています。

昨年12月、戦禍の激しいドネツク州コンスタンチノフカに1,320箱の支援物資を届けたとき、物資を受け取った避難民のひとり、タティアナさんが言いました。「戦火に追われ、新たな避難先での生活を一から始めたばかりです。食料や衛生用品などの支援はわずかな年金で暮らす私にとってとても大きな支援です。本当にありがとう！」戦争の長期化によって活動資金が少なくなっていますが、支援の必要性は以前よりもさらに高まっています。今後も、希望を届けられるよう尽力してまいります。



箱には小麦粉、砂糖、塩、缶詰、油などの食料と様々な衛生用品が入っている

ADRA Japanスタッフが 活動地で感じた3月の色

冬の厳しい寒さに耐えた分、皆さまは春の到来に心を躍らせていらっしゃるのではないのでしょうか。新年度の始まりでもあり、桜の花が心を和ませてくれます。

ADRA Japanにも、東京事務所から世界各地の持ち場に飛んでいくスタッフがいます。今回は、「活動地で感じた3月の色」について聞いてみました。エチオピア担当者は言います。

「3月のイメージは暑さです。ガンベラは日中、45度くらいまで気温が上がります。日射病で倒れたこともありますね。色で表現するなら青です。乾季なので、晴れていることが多く、空の色です。

エチオピアでは昨年5月から11月ころまで、難民の方々は食料難に陥っていました。ガンベラでは、餓死者も出たほどです。12月から食料支援が実施されたので、その状況が落ち着いていることを願います。また、給水設

備の復旧などを行ったアムハラ州で、今後も地域の人々に安定した状態で水が届くことを祈っています」

ミャンマーで仕事を続けた者も語りました。

「冬から急に初夏に移り変わる、日中の暑さを思い起こしますね。当地の3月は一気に気温が上がり、さあ、活動的な猛暑が来たぞ!と、高揚感を持つ時期なんです。イメージするカラーは黄色です。3月から4月の間はゴールデンシャワーの花が咲き乱れ、町が黄色に色付きます。内戦が続くミャンマーで、黄色い花が咲く様子を皆が幸せな気持ちで愛でることができる日が戻ってくれたらと、願わずにいられません」

つい先日、7か月半のウクライナ支援のためスロバキア駐在を終えて帰国したスタッフも話しました。

「スロバキアやウクライナにとって、3月はまだ冬のように寒いです。色は、

白に近い淡い黄色でしょうか。ただ、日照時間は12月、1月、2月よりも長く、太陽光も徐々に強くなっていく頃です。今は、ウクライナの停戦を祈るばかりです」

今回、ADRAスタッフの選んだ色セラピストの田林綱紀さんに解説してもらいました。

「個々の状況から、同じ色相でも明度・彩度の見え方・捉え方が異なります。とはいえ、日本における3月は桜の印象も含め、ほのかに色づくピンクを連想しがちですね。それ以上に気候など外的刺激からの気持ちの軽やかさも現れます。エチオピア担当の方がイメージした寒色の青は、早朝の清々さに通じ、新鮮な空気を吸い取むような『受入れ・理解』、そして『意欲』が見て取れます。暖色系の黄色は濃淡を問わず『始動』的傾向が強いです」

皆さまが感じるそれぞれの春が、希望にあふれたものでありますように。



ウクライナ、スミ州、3月に室内で撮影された一枚
太陽光も徐々に強くなり、優しい光が射す時期



2月中旬にアムハラ州の調査で、地方のラリベラ空港に降り立った時に撮影した一枚。アフリカ特有のどこまでも続く広くて青い空が印象的

JAPAN 能登半島地震被災者支援

始まったばかりの復興支援、 引き続き寄り添った支援を

今年1月1日16時10分ごろ、石川県でマグニチュード7.6の地震が発生し、2月26日時点で死者241人、住宅被害は78,244棟にのぼり、約1万3,000人が避難生活を強いられており、依然として厳しい状況が続いています。

ADRA Japanは発災当初より、現地地の情報を集め、翌週の9日には石川県七尾市にある中島地区コミュニティセンターにて大豆ミートを使ったレトルト食品やカルシウムがとれるパック飲料などを受け渡しすることができました。翌日には大豆ハンバーグを食べた方から「とても美味しかった」との声が届きました。

また、断水状態になっている石川県北部の穴水町では、災害ボランティア団体「きざし」と協働して、髪を簡易温水シャワーで洗う活動を実施しています。利用者の方からは、「自衛隊のお風呂は時間がかかるからね、何回も行くのは面倒くさいから、頭だけでも洗っとけば、なんとなく大丈夫になって(笑) ありがとうございます」「障がいを持つこの子のこともあって、よそのお風呂は難しくてね。結構よかったわ。頭だけでも洗えてさっぱりしました。また利用させてください」など、いろいろな事情でなかなかお風呂に行くことができない方々に喜んでいただいています。

七尾市内では、災害対応バス「ゆあしす号」を使用した移動カフェと足湯の提供を行い、ホッとするひと時を提供しています。住民の方々からは、「久々に集まることができて良かった」「近所の人もどうしているか気になっ

ていたけど、なかなか集まる機会がなかったから嬉しい」との声がありました。

現場にいと、おひとりおひとりの事情が異なる中で、どうにか精神衛生を保とうとされているのではないかと感じます。復興支援は始まったばかりです。皆さまの温かいご支援をどうぞよろしくお願いいたします。



移動カフェは住民の方にとってリラックスできる時間と共に、情報交換の場にもなっている

皆さまからの温かいご寄付を
よろしくお願いいたします

<https://x.gd/LUFHR>



以下の通り、第20回ADRA Japan通常総会を開催いたします。

日時

2024年6月16日(日)10時～12時

場所

SDA原宿クリスチャンセンター/
オンライン

主な議題

- ・2023年度事業報告承認の件
- ・2023年度会計報告承認の件
- ・監事選任の件 など

正会員の皆さまには日程が近づきましたら、詳細のご連絡をいたします。ご参加をお待ちしております。

アドラの
チカラ

ADRA Japanを
支えてくださる方々
をご紹介します!



加藤伸彦さん

(ジェイビーシー株式会社
代表取締役社長)

——ADRA Japanを知ったきっかけ

ウクライナに支店を持っていたことから、当地にNGOを通じて募金をしたいと考え、インターネットで検索して探し当てた。

——ADRA Japanとの関わりについて

Peace Walkという試みをサポートさせて頂いた。日本人はなかなか誰かに寄付するという文化やボランティア精神があまり無いが、500名以上の方が賛同して下さったことは素直にうれしい。今後もADRAとながっていたいと感じる。

——ADRA Japanの魅力や関わって いてよかったことを教えてください

まだ魅力を感じたことは無い。海外といろんなことをやっていらっしゃるの、PRすべき。良かった点は、自分が目指していた社会貢献ができた点。

——ADRA Japanへのメッセージを お願いします

活動は素晴らしいが、まだ日本社会での認知度が低い。ADRA Japanは名前が知られていない。募金したい人は、国境なき医師団や赤十字などに目がいってしまう。そこを何とかする必要があると感じる。

いらないけど捨てるにはもったいない。 処分に困っていませんか？

お宝エイドは、不用品を送っていただくと、ご寄付いただいた品物が支援活動資金へと変わり、紛争などにより苦しい立場に置かれている人々に必要な支援を届けることができます。使用しないけれど処分できないものなど、ご自宅に眠るあなたの大切な思い出の品で社会貢献をしてみませんか？



買取りできるもの

ブランド食器・貴金属・宝飾品・時計・ブランド品・高級洋酒・美術品・骨董品・コイン・メダル・商品券・懐かしのおもちゃ・楽器・ゲーム・カメラ・レンズ

※片方になったピアスや切れてしまったネックレス、一つだけ残っているカフスボタンも買取り可能です！

1 お宝を梱包する

「お宝」を段ボールにお詰めください。壊れやすいものは新聞などを緩衝材として一緒に入れてお送りください。小さい物は封筒等でもお送りいただけます。

2 お宝を送る

郵便局やコンビニへ荷物をお持ち込みいただくか、お電話で集荷を依頼し、着払いでお送りください。伝票は、郵便局やコンビニでも受け取れます。送料無料です。

ゆうパック集荷依頼 ☎ 0800-0800-111

(8:00～21:00) (年中無休・通話料無料)

伝票のお届け先は、〒156-0041 東京都世田谷区大原2-23-27-1F
お宝エイド受付センター・本店 ADRA Japan宛 電話番号 03-6265-7595 と記入下さい。

※お品物はお宝エイド受付センターに到着した時点で、ADRA Japanへ寄付されたものとなり、ご返却はできなくなりますのでご注意ください。

応援メッセージ

能登半島地震被災者支援にご寄付いただいた方より、ADRAと能登半島の皆さまへの応援メッセージをいただきました！

テレビで被害状況を確認したとき、いかに被害が甚大かが伝わってきました。私も、13年前に東日本大震災で被災して、家が津波で流されたので、能登半島地震で被災された方々の気持ちがよくわかります。しばらく余震が続く日々で、厳しい生活を強いられるかもしれませんが、どうか不安に負けず頑張ってください。

(T.Eさん 宮城)

能登半島には4～5年前に何度も行きました。能登半島1周もしましたし、輪島の朝市通りで輪島塗りも買いました。思い出のある土地です。そこに住んでいる方々が今大変な困難に直面しています。ぜひそれらの人々を、私達夫婦に代わって支援してください。応援しています！

(K.Hさん 栃木)

日本のすべてが安全であり、災害が拡大しないことを心から願っています。台湾はいつもあなたたちを支えています。

(K.Cさん 台湾)

ADRA Japanは「人間としての尊厳の回復と維持」を実現するため、キリスト教精神を基盤として、人種・宗教・政治の区別なく世界各地で国際協力活動を行っています。

ADRA News 139号 2024年3月1日発行

発行人 青木 泰樹
発行 特定非営利活動法人 ADRA Japan (アドラ・ジャパン)
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
TEL: 03-5410-0045 FAX: 03-5474-2042
E-mail: support_adra@adrajpn.org
Facebook: adrajapan X (Twitter): ADRA_Japan
Instagram: adra_japan LINE: https://lin.ee/sbm2uFM

団体概要

法人名 特定非営利活動法人 ADRA Japan
所在地 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前1-11-1
(JR原宿駅 徒歩5分、東京メトロ明治神宮前(原宿)駅 徒歩2分)
代表者 柴田 俊生(理事長)
事務局責任者 青木 泰樹(常務理事/事務局長)
創設年月日 1985年3月30日

Justice.
Compassion
Love



ADRA

デザイン: 細山田デザイン事務所